

ごみゼロ・資源循環

第1分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：100人 開催日程：1日

討論！ごみゼロ社会の実現を目指して～ゼロウェイスト宣言と拡大生産者責任の確立～

廃棄物処理法の改正やリサイクル法の整備によって、「大量廃棄」から「大量リサイクル」時代に入りました。ところがリサイクル産業の参入は増えたが、自治体現場のごみ削減の限界、ごみ処理費経費の負担増は改善されていません。行政と住民負担によって成り立つ循環型社会はいつまでもつか。「ゼロ・ウェイスト宣言」のまちから施策を提起します。

コーディネーター 広瀬立成（町田発 ゼロウェイスト宣言の会会長、早稲田大学教授）
片山純子（ワーカーズ・ごみ問題研究会）

話題提供 田中利和・（株）田中商店「エコボ水俣」専務、岩月宏子・あいちゴミ仲間ネットワーク会議、妹川征男・ILOVE 遠賀川流域住民交流会デポジット法制化を求める事務局、鹿児島県大崎町他

第2分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：80人 開催日程：0.5日（午前）

活性化！菜の花で地域をつなぐ

休耕田に菜の花を栽培して菜の花による地域おこしイベントの開催、搾油した菜種油を地域特産品として販売、使用済みの食用油を回収し BDF 燃料として利用するなど、菜の花プロジェクトは地域循環の代表的な取り組みとして全国で展開されています。菜の花プロジェクトの取り組み事例を紹介し、課題とその対策について話し合います。

コーディネーター 藤井絢子（滋賀県環境生活協同組合理事長）

話題提供 伊万里はちがめプラン他

第3分科会 対象：自治体担当者・事業者・専門家向け 規模：80人 開催日程：0.5日（午後）

検証！どうするプラスチック ～プラスチック油化によるリサイクルの可能性～

ごみゼロの大きな障壁となっているプラスチックごみ。プラスチックを油に戻し石油代替燃料として利用できれば、化石燃料の使用削減につながり効果的な地球温暖化対策としても有効です。大木町が事業者などと協力して取り組む、北九州市立大学藤本教授、芳賀特任教授が開発した触媒方式による油化事業を中心に、プラスチックケミカルリサイクルの可能性を様々な角度から検証します。

コーディネーター 藤元薫（北九州市立大学教授）又は 芳賀裕之（同特任教授）

話題提供 環境省九州事務所、柳川商事、エクアール等

第4分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：100人 開催日程：1日

生ゴミは宝だ！ ～レインボープランと生ゴミ分別の実践者たち～

生ゴミを資源として活用することは、命と循環という新しいものさしで地域づくりを進めることにつながり、市民と行政の出会い、土と台所の出会いなど、様々な新しい出会い作り出します。生ゴミ資源化による新しい地域づくりを全国に発信した長井市のレインボープランの菅野芳秀氏の特別報告

や生ごみの持つパワーを引き出し、健康野菜作りを提唱する吉田俊道氏の報告など、生ゴミは宝だ、を心から納得できる分科会です。

コーディネーター 吉田俊道（大地といのちの会）、荒木フサエ（あーすくらぶ）

特別報告 菅野芳秀 山形県長井市レインボープラン

話題提供 久留米市の取組み（保育園の畑づくり） 大川市段ボールコンポスト普及の取組み 筑後市 EM 普及の取組み 大木町くるるんの取組み

第5分科会 対象：自治体担当者・専門家向け 規模：50人 開催日程：0.5日（午前）

自治体の生ごみ分別取組みノウハウ ー地域ぐるみの循環に取り組んでみようー

生ごみを分別、資源化すれば、燃やすごみは半分になります。そこで、自治体が生ごみ資源化に取り組むための各地の実践、失敗事例を紹介しながら、自治体が生ごみ資源化に取り組むためのノウハウの紹介をおこないます。また、広域行政として、生ごみ資源化に取り組む経済的メリットについても提案します。

コーディネーター 中村修（長崎大学准教授）

話題提供 和田真理（九州大学）、西俣先子（國學院大學）、小泉佳子（アタカ大機株式会社）
他

第6分科会 対象：自治体担当者・事業者・専門家向け 規模：50人 開催日程：0.5日（午前）

検証！メタン発酵システムの到達点

バイオガスプラントは生ゴミ・畜産し尿などバイオマス資源の地域循環技術として今後普及する可能性が高いシステムです。日本ではまだ実績が少なくシステム上の課題やコストの問題など解決すべき課題も多いと思われますが、現在国内において運転実績のあるプラントメーカーや研究者などによる技術交流を行うことで、プラント設置を計画する自治体などに具体的な判断材料を提供します。

コーディネーター 佐藤純一（BET JAPAN）

話題提供 熊本大学 木田教授、バイオガスプラント・発電機メーカー他

第7分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50人 開催日程：0.5日（午後）

メタンプラントを核にした地域循環 ー廃棄物対策から地域農業振興へー

おおき循環センター「くるるん」の紹介と、くるるんがなぜ成功したのかについて、その技術のありかた、経済合理性、農業振興の視点から紹介します。また、同様のプラントで地域農業振興に成功している熊本県山鹿市の事例を紹介します。

コーディネーター 遠藤はる奈（長崎大学）

話題提供 熊本県山鹿市、田中宗浩（佐賀大学）、おおき循環センター

脱 温 暖 化

第8分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50人 開催日程：1日

木材資源を活かした持続可能なまちづくり 大川伝統産業を引き継ぐ

森林資源が豊富な日本では、木材は再生可能でカーボンニュートラルな資源として、今後ますます

重要な役割を担います。しかし、現状では森林の荒廃や木材産業の低迷、木質バイオマス燃料が十分活用されないなど課題が山積みです。日本を代表する木材家具産業の発祥地である大川において、森林保護や木質バイオマスの活用を視野に入れた新たな産業を創出し、伝統産業を守り発展させることは持続可能社会創りや温暖化対策に大きく貢献します。木材資源を活用した社会づくりを展望した議論を行います。

コーディネーター 寺岡行雄（鹿児島大学農学部 準教授）

話題提供 九州バイオマスフォーラム、大川の事業者他

第9分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50人 開催日程：1日

確実にCO2排出減！～エネルギー政策と温暖化防止～

急激に進む地球温暖化の防止のためには、エネルギー消費に伴う二酸化炭素の排出量をいかに抑えるかが重要であり、省エネルギーの推進及び自然エネルギーの導入の2方向の取り組みが必要です。この分科会では、九州内の事例を中心に、確実にCO2排出減につながるコツを自然エネルギー導入、業務部門（実行計画を含む）の省エネを軸として討論します。

コーディネーター 田中充（法政大学教授）、峰淳二（環境自治体会議客員調査員）

話題提供 九州工業大学、佐賀県、会員自治体、おおきグリーンファンド他

第10分科会 対象：自治体担当者・専門家向け 規模：50人 開催日程：0.5日（午前）

転換期にある自治体環境マネジメント

自治体のISO14001離れが急速に進んでいます。コスト、手間、行政評価システム等との重複などが、主な原因と考えられます。一方で、自治体の環境管理の対象である、紙、ごみ、電気の削減について、わざわざ外部の審査機関に委託するまでもなく実現できている、という現状もあります。本分科会では、EMSを簡便化した長崎県の取り組みなどに、今後のEMSのありかたを見たいと思います。一方、水俣市、内子町のようにEMSを用いて環境政策を充実させている事例にも学びたいと思います。

コーディネーター 二渡了（北九州市立大学教授）

話題提供 丸谷一耕（NPO木野環境）、長崎県、水俣市他

第11分科会 対象：自治体担当者・専門家向け 規模：50人 開催日程：0.5日（午後）

持続可能な地域を支える交通政策 ～弱者と環境にやさしい交通システム～

地方都市では「車がなければ生活できない」と言われる一方で、交通弱者の増加、進学や就職の制約など、車社会がむしろ市民の生活の質を下げる要素にもなり、車で済まない移動のニーズをどのように充足するかが、大きな政策課題となっています。「CO2の排出が少ない」という側面だけでなく、市民の暮らしと地域の経済を支える、持続的な交通のあり方を考えます。

コーディネーター 日比野正己氏（長崎純心大学）

話題提供 筑後市、久留米市他

環境学習・地域の自然

第 12 分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50 人 開催日程：1 日

「水と緑と命のつどい」～矢部川と船小屋の大楠を見つめて～

私たちの住む地球には様々な生物が生きています。しかし、今私たち人間の経済活動により、生態系は大変な損害を受けています。私たちにとって身近でありながら、日頃接することのあまりない矢部川と船小屋の大楠の森を大切に、保全する取り組みから、地域の風土を学び、水と緑と命の大切さを再認識し、だれもが住みよいまちづくりのために必要な提案と活動を行うことの重要性について議論します。

コーディネーター 未定

話題提供 矢部川をつなぐ会、日本野鳥の会筑後支部、山村塾、船小屋を考える会他

第 13 分科会 対象：一般市民・環境教育関係者・自治体職員等 規模：50 人 開催日：0.5 日

「ごみとわたしたちの暮らし」

筑後市では、11 小学校、30 クラス、すべての4年生（およそ500人）が受講する、ごみ分別授業を実践しています。その結果、分別能力が確実に向上しました。これは、社会科を活用し、ごみの分別の意義を学び、実際にごみ分別能力を高める授業です。子どもたちがごみ問題に関心を持ち、自ら具体的に調べ、分別への意識と能力を高めています。この授業への関心は高く、熊本県山鹿市、長崎県雲仙市でも取り組みが始まろうとしています。

コーディネーター 中村 修（長崎大学大学院生産科学研究科准教授）

話題提供 岩熊徹（筑後市）、古賀孝敏（筑後市教育研究所長）他

第 14 分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50 人 開催日程：1 日

微生物からみた地球～水の恵みを求めて～

バイ菌などと忌み嫌われる細菌類ですが、ガマ池の調査から環境における細菌の働き的重要性を知ることができました。本分科会では、微生物、特に細菌や菌類などの分解者の働きなどの生物が本来持っている能力を軸に“水の浄化”“生物多様性”“健康”“生物と生物の関係”生物と環境の関係“などの様々な問題を考えていきたいと思っています。自然界では、物質の循環が滞ることなく起こっていますが、何らかの原因でバランスが壊れたときに循環が滞り問題が生じます。生物、特に微生物の能力を利用して循環を取り戻す可能性について考えます。

コーディネーター 木庭 慎治（福岡県立八女高等学校生物部顧問）

話題提供 日本野鳥の会筑後支部、八女高校生物部、八女農業高校、八女水の会他

第 15 分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：50 人 開催日程：1 日

ちっこ掘割物語 ～掘割の優れた機能を検証する～

筑後地区は日本屈指の掘割地帯です。昔から掘割は暮らしや農業などの産業と密着し、独自の文化を創り上げました。しかし近年、掘割との関わりが希薄となり、維持管理システムが壊れ、水質の悪化や汚泥の蓄積など本来の機能を発揮できない状況が発生しています。筑後地区の最大の特徴である掘割を再生させ、豊かな自然の復元をさせるためにこれからの掘割との付き合い方を議論します。

コーディネーター 土屋 光憲（NPO 法人 自然環境復元協会）

話題提供 アクアリング委員会、堀と自然を守る会、水の会他

第 16 分科会 対象：一般市民・自治体職員・議員等 規模：100 人 開催日程：1 日

筑後川 ～筑後川に見る機戒遺産と環境生態系の保存～

観光は、環境や文化を保全しながらなお経済を活性化する手段となりえます。筑後川流域全体を一つのテーマパークとみなす「筑後川まるごとリバーパーク」が実践されていますが、筑後川可流域、特に大川におけるこの取り組みを体験しながら、環境と経済の両立について考えます。

コーディネーター 駄田井 正（久留米大学教授）

話題提供 筑後川流域連携倶楽部、矢部川を結ぶ会、大川未来塾他

食・農・環境

第 17 分科会 対象：一般市民・学生・環境教育関係者 規模：200 人 開催日程：0.5 日

環境自治体なら「弁当の日」をやらなくちゃ

子どもが自分でつくる「弁当の日」。現在、全国的に急速な勢いで広がっています。「弁当の日」の意義と効果、具体的方法、行政の関わり方、等々を第一人者が集結し、熱く語ります。

コーディネーター 佐藤剛史（九州大学大学院農学研究院助教授）

話題提供 佐藤弘（西日本新聞社）他

第 18 分科会 対象：一般市民、農業関係者、自治体関係者 規模：80 人 開催日程：0.5 日

環境支払いの政策を地域からつくる

農業政策のほとんどが中央政府によって立案されてきましたが、自然環境を支えるための農業政策は、その地域でないと立案できません。なぜなら、その地域の自然環境はその地域の百姓仕事によって形成されていて、中央政府では把握できていないからです。一方、地方自治体も、その手法をもっていない。この分科会では、「生物多様性保全」を取り上げながら、そのような環境支払いによって、それを保全するかを、参加者と一緒に具体的に構想します。

コーディネーター 宇根 豊（百姓・元農と自然の研究所代表）

話題提供 原耕造（生物多様性農業支援センター）、佐竹節夫（元豊岡市課長）兵庫県、堀井修（元農業改良普及員）新潟県

第 19 分科会 対象：一般市民、農業関係者、自治体関係者 規模：80 人 開催日程：1 日

農村再生！本当の豊かさは農村にある～食・農・環境、好循環のある農村づくり

食糧自給率は40%と先進国でも最低水準、更に輸入食品の安全性が脅かされる事件が続出するなど、飽食ニッポンの食は崩壊寸前。日本の食を支えてきた農村は疲弊しています。農村再生や安全な食の生産を实践する挑戦者たちの取り組みを通じて新たな農村づくりを考えます。

コーディネーター 八尋幸隆（百姓、福岡県有機農業研究会）

特別報告 徳野貞夫（熊本大学文学部教授）

話題提供 小役丸秀一（グラノ24K）、古野隆雄（合鴨農法）、八尋幸隆（むすび庵）、中島宗昭（万右衛門クラブ野菜生産部長）、水落重喜（きのこの里理事長）